

平成27年度 経済環境委員会（後期） 行政視察報告書

1. 視察日程 平成27年10月20日（火）

2. 視察先

千葉県船橋市

3. 参加者

委員長 勝間田 幹也

副委員長 平松 忠司

委員 田代 耕一 稲葉 元也 芹沢 修治 勝亦 功

辻川 公子 勝間田 博文

4. 視察内容

■ 『観光ふなばしアンデルセン公園の取り組みについて』

平成27年10月20日（火） 13:00～15:20

於：ふなばしアンデルセン公園

≪視察研修の目的≫

『ふなばしアンデルセン公園』は、今年7月、世界最大級のロコミサイト・トリップアドバイザーの「世界の人気観光スポット2015 テーマパーク部門」で、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを抑え、東京ディズニーランド、東京ディズニーシーに次ぐ日本3位に選ばれた。本市においても『富士山樹空の森』や『秩父宮記念公園』があり、集客力向上等の課題がある。そこで、なぜ『ふなばしアンデル

セン公園』が、外国人観光客が利用することの多いトリップアドバイザーで高評価を得ることになったのかを確認し、当市における観光施策を展開するうえでの参考にすべく視察研修を実施した。

《視察内容》

前身は、昭和62年に「わんぱく王国」として誕生した公園であり、それが平成8年『ふなばしアンデルセン公園』に生まれ変わった。それまでは、親子連れ向きの現在のワンパク王国ゾーンにあたる部分しかなかったが、自然体験・花の城・メルヘンの丘・子ども美術館のエリアを増設した。公園の名は、船橋市の姉妹都市であるデンマークのオーデンセ市生まれの童話作家、ハンス・クリスチャン・アンデルセンに由来し命名した。また、東京ドーム約6個分の広大な敷地を有し、緑豊かな憩いの場として多くの方々が来園している。

5つのゾーンは、体を動かすことの出来る体育会系親子向けの「ワンパク王国」、年配者向けの「自然体験ゾーン」、幼児向けの「花の城ゾーン」、だれでも楽しめる万人向けの「メルヘンの丘ゾーン」、親子連れ向けの「子ども美術館ゾーン」があり、だれでも楽しめるような設定がされていた。

入園者数が急激に増えたのは、平成19年に船橋市で全国都市緑化フェアが開催された際、公園にたくさんの花を植えたことによる。それ以降、園内のいたるところに花を植え、一年を通して、季節の花が楽しめる公園にしたことで、入場者数も着実に増え続けている。



園内視察（園長説明）

管理運営は指定管理者制度により、公益財団法人船橋市公園協会が行っている。平成26年度の入場者数は662,754名で、同年決算では、収入476,805千円、支出774,670千円、船橋市からの指定管理料333,175千円で

運営されている。『ふなばしアンデルセン公園』は、あくまでも都市公園であることから、公共に憩いの場の提供を行なうものであり、利益を求める施設ではないとの事であった。

現在も入場者数は年々増加しているが、今年7月のトリップアドバイザーの発表後、メディア等による報道もあり、9月の入園者数は前年同月比88%増となり、シルバーウィークには開園以来、初めて1日の入園者数が2万人を超えた。これにより開園1時間後の10時にはすべての駐車場が満車となり、周辺道路に大渋滞が起こってしまったということであった。

周辺道路の混雑緩和のため、駐車場の確保や公共交通機関への臨時バス増便等対応が必要であるが、道路そのものが狭く渋滞時にはバスも動けないことや乳幼児を連れた家族が果たして公共交通機関で移動していただけるかなど課題も多い。また、トイレ、売店設備、遊戯施設等が不足も今後の課題となっている。

《考 察》

『ふなばしアンデルセン公園』は、船橋市と姉妹都市のデンマークオーデンセ市出身の童話作家アンデルセンに因んで名づけられているが、メルヘンの丘ゾーンにある風車の管理のために、職員がデンマークへ赴き、研修を受け、風車守として修了証を受けているということであった。また、子どもたちが衣装やフェイスペインティングで変身し幻想的な「おやゆび姫」の世界をスタジオで体感できるなど演じることの楽しさを本場デンマークと同じように体験できるアンデルセン・スタジオを設置する等、すべてがしっかりとしたコンセプトのうえで成り立っている。



童話館前にて

また、アスレチックや工作、動物とのふれ合いなど子供の発想でのびのびと遊べ

るのに加え、季節ごとにいろんな花を観賞できるなど世代を超えて楽しめることが人気の秘密と感じた。本市の『富士山樹空の森』や『秩父宮記念公園』でも実施しているが、ボランティア（個人・企業）による花の植え替え作業も行われ、市民がより公園に愛着の持てる取り組みも行われている。すごく特別なことをしているわけではないが、常に園内のサービスを充実させることを忘れずに、イベントを行うなどで入園者に還元できるようにしている。また、そのアイデアを職員が自由に提案し、実現できる環境にあることも人気の一因と感じた。

本市においても『富士山樹空の森』や『秩父宮記念公園』があるが、しっかりしたコンセプトのもと、万人が楽しめる施設とすべきと考える。そして、働く方たちの自由な発想が実現できる環境づくりも必要と感じた。また、船橋市の職員の方に3億円余の指定管理料（年間）についてお聞きしたところ、「来園してくれた方たちが満足して頂く都市公園ですから決して高い金額ではないです。」との事であった。このように自信を持った事業運営が必要でもある。今後の本市の公園運営を含めた観光施策に大変に参考になる研修であった。